

## 背景

○高校生に「町政」や「町づくり」といったものをより身近に感じてもらい「参政権」を持つことの意味を考える契機として、模擬議会等の開催を学校へ提案。

## 事業の概要 〈開始年度：H27～隔年開催 R3実績：1校（約30名）で開催〉

## ○出前講座の開催

- ・選管職員が講師となり、選挙の仕組みの説明や若者の投票率低下の現状を解説
- ・参政権を有する意義や1票の大切さを考えてもらう機会として、高校2年生を対象に実際の選挙の流れに沿った投票体験を実施。
- ・受付係、名簿対照係、投票用紙交付係などの投票事務やその後の開票事務まで、投票から開票まで生徒が行い、選挙の一連の流れを体験。

## ○模擬議会の開催

- ・全学年のうち数名の生徒を募り、生徒たちが議長、議員を務め、模擬議会を開催し、生徒からの提案や質問に対して町長以下町幹部が答弁を実施。
- ・質問内容は事前に生徒が新聞や役場からの聞き取りで情報収集を行い作成。
- ・通学支援事業等、実際に高校生からの提案を受けて町の政策へ反映となった例もある。

[▼投票・開票事務体験の様子]



[▼模擬議会の様子]



## 工夫・注意点

- 投票体験では実際に選挙で使用している記載台や投票箱等を使用。
- 事業実施後はアンケート調査を行い、その結果を踏まえ、次回の啓発活動や投票率アップへ向けた施策を検討。



[▲出前講座の様子]

## 事業の効果・今後の展開

- 高校生が政策づくりを行う上で、町の政策についても学んだことで、町を理解することに繋がった。
- 事業実施後の参院選において、18歳の投票率が70%を超えるなど投票に対する意識が高まった。
- 出前講座や選挙啓発を地道に継続し、若者の関心のきっかけに繋げていく。